



## テーマは「宮城県の大豆（乾燥子実）の収穫量」（令和7年産）

宮城県拠点のWebサイトはこちら →



○「乾燥子実」とは、食用を目的に未成熟（完熟期以前）で収穫されるもの（えだまめ）を除いたものをいう。

### 宮城県の大豆収穫量は全国2位

— 収穫量全国上位10都道府県に宮城県を含む東北4県がランクイン —

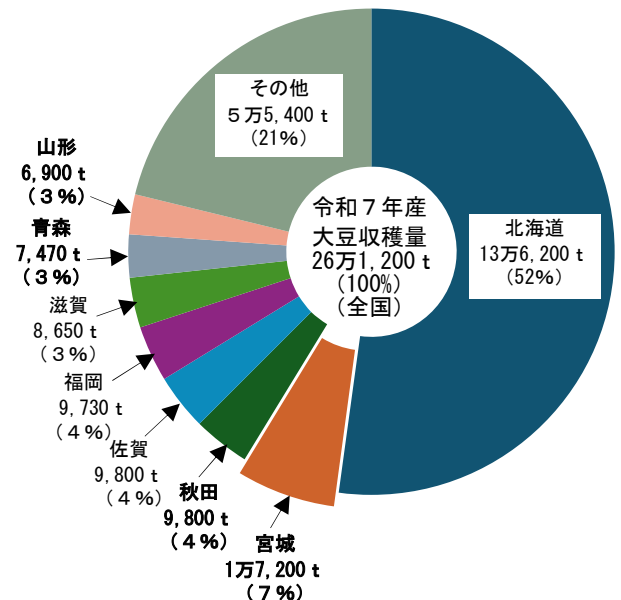
宮城県の令和7年産大豆の収穫量は1万7,200 tで、北海道に次ぐ全国2位となっています。

また、東北では、全国の上位10都道府県に秋田県（3位）、青森県（7位）、山形県（8位）がランクインしています（表1、図1）。

表1 令和7年産大豆の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量（収穫量全国上位10都道府県）

図1 令和7年産大豆の都道府県別収穫量及び割合（全国）

順位	全 国・都道府県	作付面積	10 a 当たり収量	収穫量
		ha	kg	t
	全 国	144,100	181	261,200
1	北 海 道	46,800	291	136,200
2	宮 城 県	10,700	161	17,200
3	秋 田 県	8,100	121	9,800
4	佐 賀 県	6,500	151	9,800
5	福 岡 県	7,000	139	9,730
6	滋 賀 県	7,270	119	8,650
7	青 森 県	5,260	142	7,470
8	山 形 県	4,540	152	6,900
9	新 潟 県	3,650	176	6,420
10	愛 知 県	4,120	142	5,850



資料：農林水産省統計部「作物統計」（図1及び図2において同じ。）

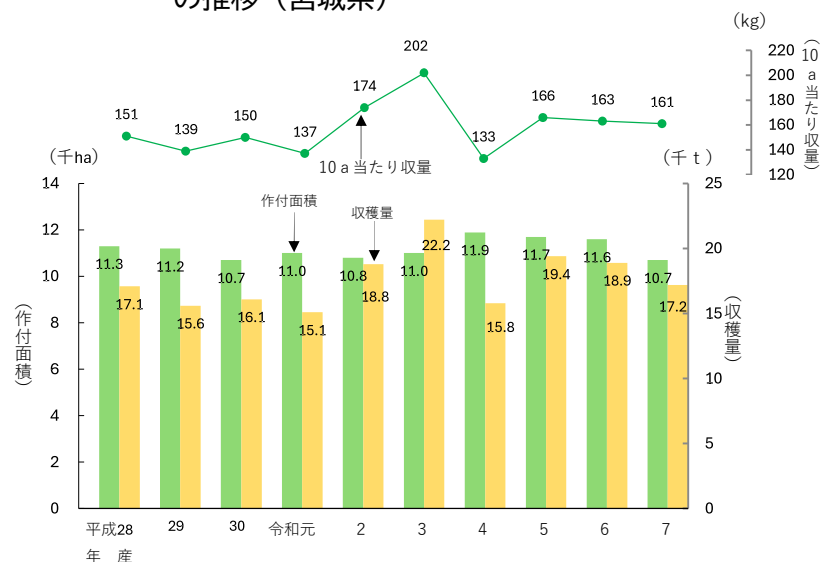
注：統計数値及び割合については、表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。（図3及び図4において同じ。）

### 大豆の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量の推移（宮城県）

— 令和5年産以降の10 a 当たり収量は160kg台で推移 —

宮城県の大豆の生産状況について、直近10年間の推移をみると、作付面積は1万1千～1万2千ha程度で推移しており、直近の令和7年産は水稻への転換等により、前年産に比べ900ha減少しました。また、10 a 当たり収量は、令和5年産以降160kg台で推移しており、収穫量については、特に作柄が良かった令和3年産を除いて、1万5千～1万9千 t 程度で推移しています（図2）。

図2 大豆の作付面積、10 a 当たり収量及び収穫量の推移（宮城県）





# 令和7年産大豆の市町村別収穫量（宮城県）

－ 上位5市町の収穫量が県内収穫量の約7割を占める －

宮城県における令和7年産大豆の市町村別収穫量は、大崎市が3,030 t で最も多く、次いで石巻市2,890 t、登米市2,090 t、美里町1,850 t、仙台市1,540 t の順となっており、この5市町で県内収穫量の約7割を占めています（図3）。

また、東北全体の市町村別にみても、大崎市が1位となっており、東北上位10市町村に石巻市（2位）、登米市（4位）、美里町（7位）、仙台市（9位）がランクインしています（表2）。

図3 令和7年産大豆の市町村別収穫量及び割合（宮城県）

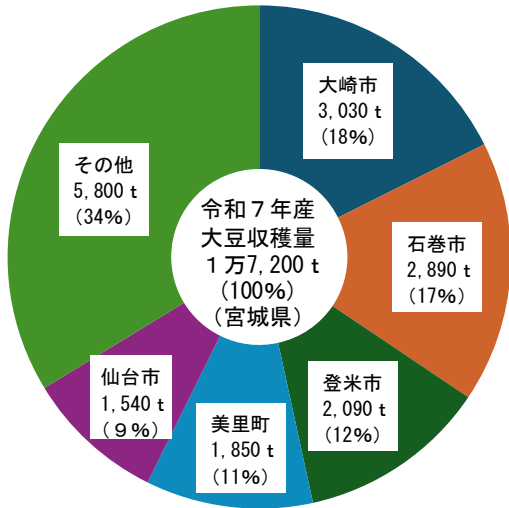


表2 令和7年産大豆の市町村別収穫量（東北）（収穫量上位10市町村）

単位：t		
順位	市町村	収穫量
1	大崎市(宮城)	3,030
2	石巻市(宮城)	2,890
3	大仙市(秋田)	2,120
4	登米市(宮城)	2,090
5	つがる市(青森)	1,930
5	奥州市(岩手)	1,930
7	美里町(宮城)	1,850
8	鶴岡市(山形)	1,680
9	仙台市(宮城)	1,540
10	横手市(秋田)	1,340

資料：農林水産省統計部「令和7年産市町村別統計」（以下表2も同じ。）



# 農林業センサス結果からみた大豆の作付面積規模別経営体数及び構成割合の動き（2020年→2025年）（宮城県）

－ 1経営体当たりの作付面積は、（2020年）5.3haから（2025年）7.5haへと2.2ha増加 －

宮城県の大豆の作付経営体数の推移をみると、2025年は1,401経営体で、2020年の1,927経営体から526経営体減少した一方で、1経営体当たりの作付面積は7.5haであり、2020年の5.3haから2.2ha増加し、作付面積の規模拡大が進んでいることがうかがえます（表3）。

図4の作付面積規模別の経営体数及び構成割合の推移をみると、15ha未満の各階層の経営体数は、2020年から減少し、特に1ha未満の経営体数が2020年から約半減し、構成割合も2020年の51.9%から14.8ポイント低下し、小規模経営体が減少していることがうかがえます。

表3 大豆の作付経営体数と作付面積及び1経営体当たりの作付面積の推移（宮城県）

	作付実経営体数①	作付面積②	1経営体当たり作付面積 ②/①
	経営体	ha	ha
2020年	1,927	10,228	5.3
2025年	1,401	10,536	7.5

資料：農林水産省統計部「農林業センサス（各年2月1日現在）」（以下図4も同じ。）

図4 大豆の作付面積規模別経営体数及び構成割合の推移（宮城県）

